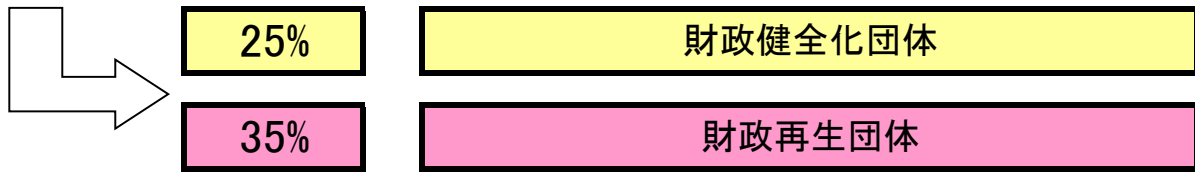


健全化判断指標③

実質公債費比率

一般会計等が負担する元利償還金・準元利償還金の標準財政規模に対する比率 (3ヶ年平均)

準元利償還金・・・繰出金(一般会計等→企業会計)中、公営企業債への償還充当分、債務負担行為に基づく支出中、公債費に準ずるもの など



■算定方法

$$\text{実質公債費比率} = \frac{\text{実質的な公債費 (元利償還金・準元利償還金等)} - \text{・充当特定財源額・基準財政需要額算入額}}{\text{標準財政規模 (臨時財政対策債を含む)} - \text{基準財政需要額算入額}}$$

■熊本市の実質公債費比率

R2	$\frac{36,323 \text{百万円}}{195,250 \text{百万円}}$	-	$\frac{26,360 \text{百万円}}{20,388 \text{百万円}}$	=	5.70%	} 3ヶ年平均
R1	$\frac{42,548 \text{百万円}}{192,806 \text{百万円}}$	-	$\frac{32,428 \text{百万円}}{20,259 \text{百万円}}$	=	5.87%	
H30	$\frac{38,357 \text{百万円}}{191,297 \text{百万円}}$	-	$\frac{27,271 \text{百万円}}{20,545 \text{百万円}}$	=	6.49%	
						6.0%

早期健全化ライン (25%) を下回っている